

## 卒業生の意見を本学の教育・研究の改善に繋げるためのアンケートについて

卒業生の皆様から頂いた貴重なご意見ご提案を踏まえて、広島大学の教育・研究、大学運営の充実に向けた取組を行うとともに、更なる改善に向けた検討を行っています。

### 1. 大学生生活全般について

本学では、大学生生活全般において学生一人一人が社会で通用する基礎力及び実践的応用力を身につけることの重要性を認識しております。

そのための具体的方策として、学生の自発的活動を尊重することを目的とし、授業等の改善、海外留学の推進、地域活動、課外活動及びボランティア活動への支援を行っています。

### 2. 教養教育について

教養教育では「幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」という教育理念の下、急速に変化する社会情勢や国際情勢にも十分配慮しつつ、継続的な見直し、改革を実行してきました。特に、2018年度からは、上記理念に加え、「自ら主体的に考え、問題を発見し、解決する能力を涵養すること」、「グローバルな視野に立ち、国内外で活躍するための能力を涵養すること」を目的とした新カリキュラムを実施しています。

その中で全学部必修科目である「大学教育入門」では、各界で活躍されている著名人による講演「世界に羽ばたく。教養の力」を実施している他、社会連携科目では官公庁や民間機関等の現職の方による授業を展開するなど、社会で活躍されている方々の経験や考え方に触れる機会を提供することで、大学生活および将来の職業等を考えるうえでの動機づけを高めております。

また、グローバル化の進展に伴い、例年、英語をはじめとする外国語科目に対するご意見等が多く寄せられていますが、本学では、到達目標型教育の一環としてTOEIC(R) L&R IP テストを2004年度から全学一斉実施により行っている他、英語で実施する教養教育科目の充実も図っています。加えて、外国語科目（英語以外の初修外国語も含む）については、学内での授業以外にも、本学の海外協定校が提供する語学研修プログラムに参加し、一定の条件を満たすことで単位認定できる制度もあり、学外でより実践的な教育を受けることも可能です。

アンケートでは、情報教育に関するご意見もいただいておりますが、本学では全学生が「AI戦略2019」で目標とされているレベルの能力を習得できるよう情報・データサイエンス科目の見直しを行い、2021年度から「情報・データサイエンス科目」の全学必修化を行いました。この取組は文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」として認定されています。

さらに、本学の理念の一つである「平和を希求する精神」に基づき、平和教育にも力を入れており、全学部必修科目として平和科目を開講しています。同科目は本学の特徴の一つでもあり、多様な観点から平和を学ぶ機会を提供し、平和について考える

ことを通じ、豊かな人間性を涵養するため、科目の充実や教育内容の見直しを継続的に行っております。

一方、新規採用教員および新規に教養教育の授業を担当する教員らが上記の目的や取組みを十分理解した上で授業を提供できるよう研修会や教員間の授業参観も定期的を開催しており、今後も教員及び授業の質向上に取り組んで参ります。

### 3. 専門教育について

幅広い視野から物事を捉え、高い倫理性に裏打ちされた的確な判断を下すことの出来る人材育成のための主な取組として、学士課程教育においては、次のことを行っています。

- (1) 到達目標型教育を実現するための教育プログラムの実施・検証・改善
- (2) 問題発見解決能力向上のための教育（PBL 教育）
- (3) 卒業時における外国語運用能力向上のため全在学期間にわたって TOEIC(R)L&R IP テストを実施（グローバル化社会に向けての対応）
- (4) 体系的な分析手法や情報処理技術に関し、学問領域に応じたデータサイエンス/インフォマティクス教育（情報科学パッケージ科目）
- (5) 「学生による授業改善アンケート」を実施

汎用的なスキルを大学時代にもっと身に付けられたのではないかとのご意見がありましたが、本学では、留学やボランティア活動といった学生の主体的な学習体験の促進や、授業を短期間で集中的に受講することによる教育効果の向上等を目的として、2016年度からクォーター制（4学期制）を導入しています。

また、対話・討論や反転授業等のアクティブラーニングを授業に取り入れやすくするため、1クォーターで完結する授業科目は、週2コマ連続（180分）で実施することを原則としており、主体的な学びを通じて、学生が将来にわたって積極的に課題に取り組み、解決していく能力を身に付けることができる修学環境を整えているところで

す。

今後も引き続き、皆様からのご意見等を踏まえながら検証・改善に努めて参ります。

### 4. 学生支援について

本学に入学された方が、卒業されるまであらゆる面で充実した学生生活を送れるよう、きめ細やかな学生生活のサポートを行っています。

学生の課外活動については、今後も課外活動施設の維持管理や助成物品の支給など、更なる充実に努めていきます。ボランティア活動についても、学生が積極的に参加できるよう情報提供に努めています。2017年度からは東広島市内各所で行うボランティアに係る交通費は大学で負担する制度を設け、学生の負担を軽減しています。

経済支援については、授業料免除や奨学金が受けられてよかったという声が多く寄せられています。本学では、経済支援制度として授業料免除、入学科免除・徴収猶予制度などを実施しています。さらに、広島大学独自の給付奨学制度として、平成20年度から「フェニックス奨学制度」、平成29年度からは在學生（3年次生から）を対象と

した給付型奨学制度である「光り輝く奨学制度」をそれぞれ実施し、学力が優秀でありながら経済的理由により大学進学や就学が困難な学生を支援する制度を充実させています。

また、昨年度より給付型奨学金と授業料減免制度が一体となった高等教育の修学支援新制度が開始されました。本学も対象機関となり、新制度を加味した充実した経済支援を行っております。

これらの制度については、広島大学ホームページ(学生情報の森もみじ→学生生活のサポート→経済支援)において情報を提供しております。

なお、毎年自由記述欄に周知不足を指摘する記載があり、今回も「経済的に余裕がなかったので、授業料免除に大変助けていただいた。同級生には授業料免除について知らない人も多かったので、受験を考えている高校生も含めて多くの学生に伝わればいいと思う」との記載がありました。

上記のとおり、もみじを通じて周知しているほか、オープンキャンパス等でも周知していますが、今後その他に有効な周知手段があった場合は、周知方法に追加することといたします。

また、本学では、人生経験豊富ななんでも相談員が対応する「学生のためのなんでも相談窓口」やピアサポートルームが行っている「学生による学生のためのなんでも相談」において、随時相談を受けつけています。昨今、新型コロナウイルス感染症防止のための自粛生活により、不安や悩みなどを抱え込みやすい状況になっています。どこに相談したらよいかわからず困っている学生のためにも、これらの相談窓口があること、気軽に相談してほしいことを、今後も広く学生のみなさんにお知らせしていきたいと思っております。

今後も引き続き、皆様からのご意見等を踏まえ、検証・改善に努めて参ります。